

## ノースウエスト準州

## Northwest Territories

# 感動的なオーロラを求めて、今こそ北の大地へ！

## 澄み切った空気の下で全身を解放する、ポストコロナの旅

分散型旅行が求められる今、人も少なく大自然が広がるノースウエスト準州は、理想的な目的地といえる。極北の澄み切った空気を深呼吸して、圧倒的なオーロラを眺め、身も心も解放する、そして他にないユニークな体験をする。今こそそんなストレスフリーな旅を提案したい。



ノースウエスト準州イエローナイフでは高確率でオーロラを見ることができる  
(Photo: CTC/NWT Tourism)

### 場所も季節もお好み次第 壮大なオーロラを様々なスタイルで堪能

ノースウエスト準州の州都イエローナイフは、40年以上前、カナダでも最初にオーロラツアーが始まった場所だ。この街は、光が頻りに出現する「オーロラベルト」の真下に位置し、世界でもトップクラスの遭遇率を誇る。長年のオーロラツアーの実績を持ち、またその経験を元にユニークな鑑賞スタイルも登場。グループツアーから個人旅行まで、様々な好みに合わせた楽しみ方ができるオーロラパラダイスとして盛り上がっている。



州都イエローナイフには、政府関連のビルやホテル、レストランも充実  
(Photo: Adam Pisani)

#### 確実に見られる場所まで光を追跡 オーロラハンティング

オーロラが出るのを待つのではなく、出ている場所に行って光を見よう、というアグレッシブなツアーが「オーロラハンティング」だ。夜、ガイドが運転するバンに乗り込み、オーロラを求めてドライブ。ガイドはオーロラ出現情報や雲が切れているエリアなどをチェックし、よ

り確率の高い場所へと案内してくれる。鑑賞スポットは、冬の間だけ出現するアイスロードの上であったり、一面の雪原であったりと、その日のオーロラ事情によって異なる。待機する建物などはないが、より確実に壮大な光に遭遇できるのが魅力だ。

#### 冬でも暖かく快適に

##### 設備の充実した観賞施設の利用

グループツアーなどで人気が高いのが、専用施設を利用してのオーロラウォッチングだ。暖かく快適な室内で食事などを楽しみながら光の出現を待てるのが特徴。例えば日本人旅行者に人気の「オーロラビレッジ」の場合、町の明かりが届きづらい郊外の、湖畔にある広大な敷地に大小のティーピー（先住民のテント）が建ち並び、夜、ここで待機することができる。エリア内にはダイニングホールやギフトショップまで完備。また、いくつかの高台を含むたくさんの鑑賞スポットも用意されている。氷のシャボン玉、瞬時に凍るカップ麺など、ユニーク



ティーピーが建ち並びオーロラビレッジ  
(Photo: Adam Pisani)

な極寒実験も体験できるなど、オーロラが出ていない時間も楽しめるよう工夫されているのもポイントだ。

#### 満天の星と神秘的な光の下 犬ゾリで北の雪原を疾走

これぞカナダ、というべき鑑賞方法がこれ。夜、犬ゾリに乗って雪原を疾走。人里離れたキャンプまで行き、ここで暖をとりながらオーロラを待つという、ロマンチックかつダイナミックなプログラムだ。オーロラはもちろん、犬ゾリ体験も印象的。静寂に包まれた北の原野に聞こえるのは、犬たちの息づかいと雪を踏む足音のみ。見上げれば満天の星。運が良ければその移動中にオーロラが出現する事もある。ちなみに犬ゾリは、スノーシューやクロスカントリースキー、ス



屋のアクティビティとしても人気の犬ゾリ  
(Photo: Adam Pisani)

ノーモビルなどと共に、冬のイエローナイフでの昼間のアクティビティとしても大人気だ。

#### 一晩中、好きなだけ夜空を眺められる リモートロッジでの滞在

大自然の中にぽつんと建つロッジに滞在し、心ゆくまでオーロラを楽しむ。そんな鑑賞スタイルも可能だ。夜になれば自分の部屋からも空の様子を確認する事ができ、またひとたび光が現れれば、部屋からはもちろん、外に出て大地に寝そべって空を見上げる事もできる。時間制限がないので、その気になれば朝まで粘ることも可能だ。イエローナイフ郊外に

は、こうしたロッジがいくつかあり、これらを利用するツアーも出ている。特にリピーターや、じっくりと写真を撮りたいといった旅行者に人気だ。



オーロラ鑑賞ができるブラッチフォードレイク・ロッジ  
(Photo: J. F. Bergeron)

#### オーロラ爆発との遭遇も期待できる？ 夏から秋にかけてのツアー

真冬の厳寒の中で鑑賞するといったイメージが強いオーロラだが、イエローナイフは、夏～秋にかけても見事な光が堪能できる場所としても知られている。オーロラは、太陽風が地球の大気にぶつかって起こる現象で、実際には季節とは関係なく、地球の南北の帯（オーロラベルト）付近で一年中発生している。つまり空が暗く晴れていれば、夏でも光を見る事ができるのだ。この点、夜の時間帯が長くなり、また晴天率も高い8～10月のイエローナイフは、かなり好条件の下にある。

ちなみに、夜と昼の時間が同じとなる春分の日と秋分の日前後には、オーロラ発生のメカニズムが最も活発になるとい



湖に映る「逆さオーロラ」が見られるのも夏～秋  
(Photo: Yuichi Takasaka)

う研究や統計結果もあるという。夏から秋にかけては、空一面を覆うような爆発的なオーロラが見られるチャンスも高くなるというわけだ。この時期、寒さをさほど気にする必要はなく、また昼間には極北地方の見事な秋景色も合わせて楽しめるというメリットもあり、まさにオーロラツアーの穴場シーズンと言えそうだ。

#### 楽しみはオーロラ以外にも！

##### ノースウエスト準州ならではのユニークな体験

##### 自然と共にある先住民文化を体験 SDGsに向けての発見も

現在、ノースウエスト準州の人口は約41,000人だが、このうち半数以上を占めるのが、「ファーストネーション」、「メティス」（ファーストネーションとヨーロッパ人の混血子孫）、「イヌイト」などからなる先住民だ。いずれも、カナダの建国のずっと前から、長い年月を経て北の自然と共存してきた人々だ。

ノースウエスト準州では今、そんな彼らの伝統や文化に触れる「先住民体験」が興味深い旅の素材として、注目を浴びている。自然を敬い、身の周りには植物や魚、野生動物などを必要だけ獲って糧とし、得た物は最後まで使い切る、そんな先住民のライフスタイルに、学ぶ事は大きい。彼らと共に時間を過ごし、あるいは伝統的フェスティバルなどに参加



印象的な先住民文化の体験 (Photo: Pat Kane)

して、その生活の知恵や価値観、食、音楽や芸術などといった文化を体験する。かなり新鮮で刺激的なひとときだ。

ノースウエスト準州にはいくつかの先住民団体がおり、それぞれに自治政府を持つなどして、独自の文化を守りつつ、同時に旅行者などに紹介するプログラムも実施している。また観光局でも関連するウェブページや動画を作成するなどして、広くPR活動を行っている。

ウェブサイト：<https://spectacularnwt.com/what-to-do/indigenous-experiences>

動画：[\(753\) What's Your NWT Adventure? Indigenous Culture - YouTube](#)  
[\(753\) Indigenous Culture | Spectacular NWT - YouTube](#)

#### カリブーの群れを目の前！ 迫力の野生動物ウォッチング

日本の約3倍もの面積をもつノースウエスト準州。その大自然の中には、人間よりも野生動物の数の方が圧倒的に多い。大型の動物だけでも、例えばグリズリーベア、ムース、オオカミ、マスコックス（ジャコウウシ）、バイソン、ポニーベアなど、珍しい種類が多数棲息している。

動物ウォッチングを目的としたガイドツアーも充実している。中でも近年人気が高いのが、北の雪原を移動するカリブー（トナカイ）の群れに出会うツアーだ。これは、イエローナイフから北極圏



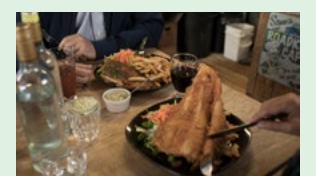
目に見るカリブーの群れは圧巻  
(Photo: Adam Pisani)

にあるイヌビクまで飛行機で飛び、ここから車とスノーモビルを乗り継いで、約3000頭のカリブーが群れる原野に向かうもの。間近に見るその様子は迫力満点だ。写真愛好家にもぜひおすすめしたいツアーだ。

#### 滋味あふれる美味しさ 究極のジビエ体験

カナダ極北地方では、他の地域では食べることのできない独特のグルメ体験も待っている。例えばムース、カリブーなどのワイルドミートをはじめ、アークティックチャー（ホッキョクイワナ）、ハリバット（オヒョウ）など。これらを使った料理は、イエローナイフのレストランなどでも提供されているので、是非味わってみたい。このほか、アークティ

クランベリーやクラウドベリーといった木の実を使った料理、先住民の人々が作るパンの「パノック」やドライフィッシュなども、ノースウエスト準州の味覚としておすすめしたい。



レストランでも北の味覚を  
(Photo: Dave Brosha)